

令和2年度 学校自己評価システムシート（県立所沢北高等学校）

目指す学校像	叡智育成・自主自律の理念のもと、学習・部活動・学校行事を奨励する中で豊かな資質を伸ばし、高い志を掲げて社会に貢献できる人間を育成する学校
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 高い志と学力を育み、進路希望を実現させる 2 「文武両道」を日々実践し、充実した学校生活を実現させる。 3 情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する。

A	ほぼ達成	（8割以上）
B	概ね達成	（6割以上）
C	変化の兆し	（4割以上）
D	不十分	（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価					学校関係者評価		
元年度目標				元年度評価（2月 日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>・学力向上を目指し授業単位数の確保と部活動等との両立のため65分授業、週34単位授業を実施している。入学時より確かな学力を身につけさせる系統的な指導を行い、第一志望実現を目指している。教育課程の検討、生徒の自律心を育てる取組を実施している。引き続き、授業力向上の取り組み、授業時間の確保、生徒の学習習慣の確立、結果分析の共有・活用方法の構築が課題である。</p>	<p>○学習指導の充実と学習習慣の確立</p> <p>○主体的、自立的な進路選択力の育成</p>	<p>①生徒の高い学力を育むためと教員の授業力向上のために外部研修への参加を積極的に行い、研修情報を職員間で共有化する。</p> <p>②新しい大学入試に対応できる教育課程を検討する。</p> <p>③65分34単位授業の効果を生かす時間割の作成・運用（年間授業時間数の均等化）を行う。</p> <p>④進路行事、LHRを通して将来を考えさせる中で体系的な進路指導を行う。学年や時期に応じた的確な進路情報を精選して提供することや体系的な進路学習や実力テストを実施する。</p> <p>⑤全学年で実施している定期考査、実力テスト、模試等において生徒が計画・準備、テスト後の解き直しが出来るように習慣づける。</p> <p>⑥高大接続改革について、職員間で情報の共有を図る。ポートフォリオの活用の仕方の検討を行う。</p>	<p>①外部研修会の参加割合が50%以上になったか。</p> <p>②高大接続改革に関する職員研修会が開催できたか。</p> <p>③学期ごとに同一単位数の時間数が1時間以内になったか。</p> <p>④-1 進路行事の内容充実が図られたか。</p> <p>④-2 的確な結果分析が行い、活用が図れたか。</p> <p>⑤学習計画表、解き直しノート等の活用が定着できたか。</p> <p>⑥研修会への参加率。ポートフォリオの活用および内容の整理ができたか。</p>			
2	<p>・全職員の共通理解のもと、統一的な生徒指導体制が確立されてきている。多くの生徒が基本的ルールを守り良好な生活状態で、学習、部活動、行事活動にそれぞれ意欲的に取り組んでいる。その一方で、生徒の自己管理意識の育成を図ること、さらに主体的・自主的に行動する能力の育成が課題といえる。</p>	<p>○基本的な生活習慣の確立</p> <p>○生徒会活動・部活動の充実</p>	<p>①校則の遵守、規範意識の向上を基本に、ルールやマナーの大切さを生徒指導年間行事（登校指導、遅刻防止指導、下校指導、服装頭髪指導、着崩し防止指導、薬物乱用防止・SNSトラブル防止講演会、自転車指導等）を通じて指導する。</p> <p>②年度当初の職員会議で本校の生徒指導方針の確認をし、全職員の共通理解を重視し連携に努める。生徒に対しては必要に応じて個別指導や学年集会等を行い、生活面等における指導にあたる。特にスマートフォンに係る指導を充実させる。</p> <p>③生徒一人一人が生徒会活動全体において、所北生としての自覚と責任をもって自ら考え、主体的に行動でき、学年を越えた交流を通じて行事等がより盛んになるように指導する。また、部活動が一層活発な活動となるための支援を継続していく。</p>	<p>①指導計画が全て実施できたか。</p> <p>②指導の効果が表れ、課題の改善がみられたか。</p> <p>③生徒会活動全体の中で、主体的な意見の交換や活動が見られたか。部活動の加入率や学校行事への満足度が高い水準を維持できたか。</p>			
3	<p>・「所北を考える会」（学校評価懇話会）を中心に、年に2回、教職員・生徒・保護者・学校評議員で課題を共有し、話し合うなど開かれた学校づくりを進めている。今後は課題の分析や改善のための方策、進捗状況などについてもわかりやすく、地域・保護者にフィードバックすることがさらなる課題である。</p>	<p>○信頼に込める学校づくり</p> <p>○情報の発信</p>	<p>①「所北を考える会」（学校評価懇話会）で、生徒代表が発言しやすい環境を醸成するべく、運営方法の工夫改善を図る。</p> <p>②課題に対する改善に向けた方策等についてのフィードバック方法を工夫する。</p> <p>③開かれた学校づくりの一環として授業公開を行い、地域住民や保護者へ、回覧板、HP、連絡メール等で周知・広報する。</p> <p>④HPや進路・学年通信、PTA広報誌等を通じて、部活動の活動状況を含め、学校の最新情報の発信を学校全体で充実させる。</p>	<p>①「所北を考える会」の運営を工夫改善できたか。</p> <p>②改善に向けた検討や報告ができたか。</p> <p>③保護者、地域住民の授業公開への理解関心が高まったか。</p> <p>④-1 HP等の定期的な更新や広報活動ができたか。</p> <p>④-2保護者への情報発信が浸透し、種々の教育活動への理解関心が高まったか。</p>			

実施日（平成 年 月 日）
学校関係者からの意見・要望・評価等